

国際化学肥料ニュース (2014年3月)

肥料業界の2014年3月動態

- * 4月1日、インドとロシアの Uralkali 社は2014年塩化加里の輸入契約を締結した。Uralkali 社は2014年4月～2015年3月に CFR322 ドル/トンの価格でインドに80万トン塩化加里を輸出する。当該価格は昨年締結した2013年度の塩化加里価格より105ドル/トン値下げした。ほかの加里肥料大手メーカーも追随して CFR322 ドル/トンの価格でインドと契約する予定である。

一方、インド政府農業省は2014～2015年度の加里肥料(純 K2O 計算) 補助金は昨年度の18833ルピー(約313ドル)/トンから15500ルピー(約258ドル)/トンに減額することに決定した。補助金の減額は農家の加里肥料購買意欲を弱める可能性がある」と指摘される。
- * ロシアの報道によれば、ベラルーシ総理は2014年にベラルーシが900万トン以上の塩化加里を生産し、輸出額が25億ドル以上にするよう計画していると発言した。2013年、ベラルーシの塩化加里生産量710万トン(K2O換算量424万トン)、輸出量570万トンであった。

また、ベラルーシの Belaruskali とロシアの Uralkali が3月末から BPC の再建に関する協議を開始することも報道された。ベラルーシ側は、BPC がモスクワに登録することを同意するが、本部をミンスクに設置すべきと提案した。
- * ベトナム政府農業省の発表によれば、2014年2月ベトナムが金額9800万ドルの28.6万トン化学肥料を輸入した。1～2月の合計輸入量が48.7万トン、金額1.54億ドル。その内訳は尿素輸入量9000トン(前年同時期に比べ18.2%減)、硫安14.7万トン(前年同時期に比べ3.5%増)。中国からの輸入量が最大で、金額では31%を占める。主な品目は尿素と硫安である。
- * 北米の塩化加里生産と販売、輸出が順調である。1月塩化加里生産量162万トン(2013年5月以来最高)、区域内販売量83.3万トン、輸出量80.3万トンであった。

- * ウクライナとロシアの紛争はウクライナの尿素生産と輸出に影響を及ぼす可能性が高い。現在、Gorlovka 社は大粒尿素の生産を停止しただけで、ほかのメーカーの生産に影響がない。4月1日からロシアがウクライナに供給する天然ガスに関する価格の割引を中止するとロシアガスプロム社はすでに表明した。ウクライナの尿素輸出量 200 万トン/年以上で、原料はロシアからの天然ガスである。

- * 3月12日に締め切られたインド MMTC 社の尿素入札結果が開示された。最低の応札価格は中国からの FOB 305～307 ドル/トンで、次点はイランからの FOB 310～312 ドル/トンであった。海上運賃を含む最低 CFR 価格は、西海岸では 325 ドル/トン（イラン品）、東海岸では 326.75 ドル/トン（中国品）である。総応札量が 206～209 万トンであったが、CFR 330 ドル/トン未満の応札量が 135～179 万トンに達し、その内訳、中国品が 94～96 万トンであった。4～5 月納品予定。

インド今回の入札結果は 2 月初めに行ったスリランカの尿素入札結果（最低応札価格 FOB 285～290 ドル/トン、落札量 1.8 万トン、中国品）より尿素の国際価格がやや持ち直したように見えるが、実態は違う。入札結果公表後の 3 月中旬、イランは強気で安値攻勢を仕掛けて、FOB 310 ドル/トンで 20 万トン尿素を売り出して、買主を探している模様。

その影響を受け、3 月下旬現在、中国尿素メーカーの工場渡し価格は 1400～1500 人民元（227～244 ドル）/トンまでに下落した。

- * インド肥料協会の統計データによれば、インド 2 月の DAP 実生産量が計画より 11.63 万トン少ない 33.57 万トン、前年同期より 9.9%減。なお、1 月の DAP 生産量が 33.095 万トン。しかし、通貨インドルピー安の関係で、2 月には DAP の輸入がなかった。3 月 24 日現在、インド DAP 在庫量が 6.2781 万トン。インド業者がすでに中国開磷グループとの間に DAP 輸入に関する覚書を交わった。

- * カタール Qafco 社の No.6 アンモニアと尿素生産ラインが 3 月 28 日から定修に入る。定修期間は 2000 トン/日のアンモニア生産ラインが 39 日、3850 トン/日の尿素生産ラインが 27 日の予定。

- * 尿素の国際市場価格の見通しがよくなる。先物市場では、7月から中国が非需要期に入り、多量の尿素が国際市場に輸出するのではないかと危惧している。ロシアとウクライナの小粒尿素7月物のFOB価格は295ドル/トンとなっている。
- * インドと国際加里肥料大手との間に今年上期の塩化加里輸入契約に関する協議が最終段階に入った。CFR価格が325～330ドル/トンで合意し、3月末に契約するのではないかと関係者が見ている。
- * 現時点では、ロシアとウクライナとの紛争はウクライナの肥料生産・輸出に悪影響を及ぼなかった。ただし、アメリカとEUの経済制裁はロシアの化学肥料輸出に影響を与える可能性が大きい。

国際市場にはウクライナの尿素輸出シェアは8.5%だけであるが、ロシアは塩化加里輸出シェア20%、りん酸肥料輸出シェア14%、アンモニア輸出シェア17%、尿素輸出シェア11%を占め、非常に重要なプレーヤーである。経済制裁を実施すれば、化学肥料の国際市場に大きな影響を及ぼすことが確実である。

ロシアの新聞社Bloomberg社は、クリミアをロシアに編入することを決定してからロシア株式市場の株価が急落し、ルーブルの為替レートも史上最安値を記録した。ロシア中央銀行は1998年以来初めて預金利息を引き上げた。また、ロシアのPhosAgro社は3月17～18日に行う予定の増資説明会を9月に延期した。

大手各社の営業業績

- * カナダPotash Corp社は2013年第4四半期の業績を公表した。塩化加里事業部門では、第4四半期の塩化加里販売量が北米地域80万トン、輸出量90万トンの計170万トン、粗利2.28億ドル（前年度同期より19%減）、年間粗利16億ドル（前年度より20%減）であった。
一方、窒素肥料部門では、2013年の年間販売量590万トン（前年度より19%増）、粗利が逆に7%減の9.13億ドル。
- * ロシアのPhosAgro社は2013年の業務報告を公表した。2012年度に比べ、窒素系肥料の生産量が19%増、販売量が15%増、りん酸系肥料の生産量が7%増、販売量が10%であった。稼働率がほぼ100%に達し、ロシアと独立共同体諸国以外にブラジル、マレーシア、ベトナム等に輸出量が増えた結果、2013年の肥料生産量が9%増、販売量が11%増であった。

- * ドイツ K+S 社は 2013 年の営業業績が悪化している。2012 年に比べ、売上高が 0.4% 増にもかかわらず、営業利益が 18.4% 減。特に主力部門の加里肥料が売上高 19.1% 減、営業利益 28% 減、部門純利益 32% 減の散々たるであった。業績悪化に伴い、株価が 5.8% 下落した。

K+S 社の CEO Norbert Steiner 氏は 2014 年の見通しがよくないと認め、“2013 年が変革の年と言われると、2014 年がその変革の影響がさらに強烈になるだろう”と述べた。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 2 月 28 日、アメリカ Mosaic 社は、当社がブラジルバイーア州 (Bahia) の Candeias にある化学肥料工場の拡張工事を終了し、2 月 13 日から生産開始と発表した。当該工場に加里肥料とりん酸肥料の生産設備を新設し、30 万トン/年化成肥料の生産能力と 6.1 万トンの貯蔵倉庫を有し、全量をブラジルの農業生産に供する予定。

- * アフリカケニア政府農業省は、豊田通商が化学肥料工場建設工事と設備の入札に 12 億ドルで落札したと発表した。

ケニアは国内には化学肥料工場がなく、すべて輸入に依存した。化学肥料工場の建設により国内化学肥料の価格が約 40% 安くなるだろうと期待される。

- * アメリカ政府国土資源管理局は Magna 社にユタ州 Paradox 盆地に加里探鉱と採掘許可を与えた。

Magna 社は Paradox 盆地に 8 つの井戸を掘り、6~10 億トン K₂O 含有量 19~29% のカーナリットを採掘する計画である。所要資金は私募等の形で集める。

- * インドの農民肥料協同組合 (IFFCO) は、カナダに尿素工場を建設する計画を確定した。当該肥料工場の建設請負業者を Ganotech 社 (アメリカ Kiewit 社の 100% 子会社) に決定した。Ganotech 社はすでに Tecnimont 社と設計と設備の選択等を契約した。

当該尿素工場はカナダのケベック州 Madeleine に建設する予定。ケベック産出の天然ガスを原料として、KBR の合成アンモニア技術および Tecnimont 社の Stamicarbon 技術の尿素合成技術を採用し、生産能力がアンモニア 2200 トン/日、尿素 3850 トン/日である。生産する尿素は全量インドに輸出する予定。

IFFCO はすでにインドに 5 ヶ所の化学肥料工場を有し、生産能力が 800 万トン/年を超えた。

- * ベトナム国営化学工業グループ（Vinachem）はラオスに加里鉍山の開發生産についてラオス政府との間に正式に契約した。

開発予定の加里鉍山はラオスの Khammouan 州 Nongbok 県にあり、開発面積約 10 平方 km²、採掘期間 20 年、塩化加里精製工場の設計生産能力は 32 万トン/年、生産期間 50 年、予定投資額は 4.5 億ドル。

このほか、Vinachem はラオスに 196.5km² の加里鉍山探鉍面積を確保してある。

- * カナダ Focus 社はペルー政府の許可を得て、太平洋側の Sechura 砂漠にある Bayovar 地域にりん鉍石採掘プロジェクトを着手したと発表した。

Focus 社の発表によれば、1400 ヘクタールの現場に 20 か所に探鉍井戸を掘り、地下 30~50m に埋蔵されるりん鉍脈を探し当てる計画である。すでに 2 つの探鉍井戸を掘り始めた。

Bayovar 地域にすでにブラジルのヴァーレ社とアメリカの Mosaic 社と日本の三井物産の 3 社が合弁会社を作って、探鉍と採掘を行っている。

Bayovar 地域には南米最大のりん鉍石鉍脈があり、埋蔵量が 8000 万トン~1 億トン、P₂O₅ 30% の良質なりん鉍石が多いと推測される。地面には 50m の砂岩と珪藻土に覆われるが、採掘が容易であるといわれる。

その他

- * アメリカ肥料研究所（TFI）は 2014 年の政策宣伝要綱を纏め、HP に公開した。化学肥料の安全性と食糧保障、エネルギーと温室ガスの排出、化学肥料の効率施用を重点に置くこと決めた。

特に農家に化学肥料に対する誤解を解けること、民衆に化学肥料が食糧増産に対する効果を宣伝すること、政府に温室ガス抑制政策が化学肥料の生産に対する影響を最小限に抑えること等を最重要課題とする。

- * イスラエル IPC 労働者が 3 月初めからストライキに入った。現在、その影響は IPC のりん酸肥料部門に限定され、塩化加里の生産と輸出に影響がなかった。しかし、労働組合は経営者との間に合意を得られない場合は、ストライキ行動がさらに広げる可能性があるかと警告した。

- * 中国 2012 年りん酸系肥料の生産詳細が判明した。実生産量が、DAP1400 万トン、MAP1330 万トン、過りん酸石灰 1550 万トン、熔りん 133 万トン、重過りん酸石灰 106

万トン、硝酸りん肥 47 万トン、りん酸を原料とする化成肥料 850 万トン、合計 5500 万トンで、世界最多である。

2012 年末現在、中国にはりん酸系肥料メーカー 538 社、生産能力が年間 5 万トン以上のメーカー 234 社。生産能力が DAP1850 万トン、MAP1650 万トン、過りん酸石灰 2200 万トン、熔りん 300 万トン、重過りん酸石灰 200 万トン、硝酸りん肥 100 万トン、りん酸を原料とする化成肥料 1100 万トン。全体のりん酸系肥料生産能力が 7400 万トンに達し、稼働率が 74%であった。

P2O5 に換算したデータはりん酸系肥料生産量 1693 万トン、輸入 34 万トン、輸出 285 万トン、国内施用量 1167 万トン、実消費量 1486 万トン、余剰量 207 万トンであった。

また、中国農業大学の予測では、中国のりん酸肥料需要量が 2010~2020 年にピークで、P2O5 1200~1250 万トン/年である。その後、土壌中の有効りんが 40mg/kg に達し、りん酸肥料の施用量が減り、P2O5 1100 万トン/年で安定すると指摘した。

- * EU は WTO 事務局に EU の肥料流通に関する法規（欧州議会・理事会規則(EC) No 2003/2003 (G/TBT/N/EU/185))を修正することを通告した。修正案の主要な内容は、①加里肥料の最低養分含有量の見直し、②新型の硝化作用／尿素分解酵素抑制材の使用承認、③ホルム窒素入りの液体 NPK 肥料、NP 肥料、NK 肥料を EU 市場に販売使用することを認め、④硝化作用／尿素分解酵素抑制材の EU 新標準の制定、である。

当該法規の修正案は欧州議会での審議を経て、2014 年 11 月に欧州理事会に同意・許可される見通し。EU 公報に掲載されてから 20 日後発効する。